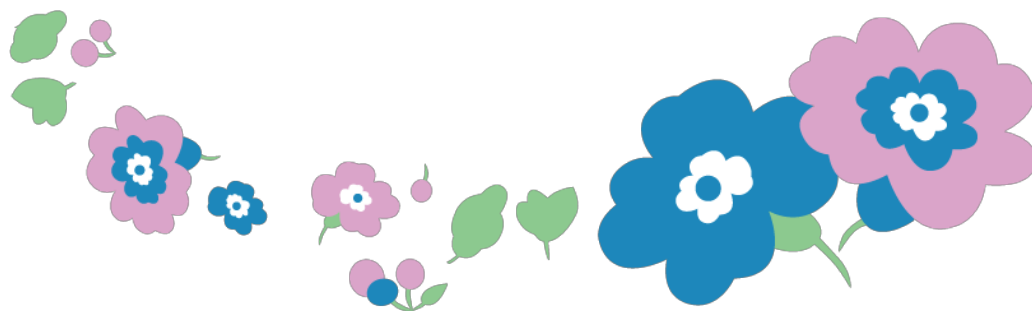


令和二年度

第六回千種区俳句・川柳コンクール  
受賞作品



主催 千種区役所 千種区安心・安全で快適なまちづくり協議会

後援 千種華道協会

## 【俳句部門】

最優秀賞

しゃくなげ 石楠花や たに そこ ゆ 谷の底行く いいだせん 飯田線

遊泉

～審査員講評～

山地に自生する常緑灌木。晩春のころ紅紫色の濃艶な五裂の合弁花。葉も大きい。花も大きい。谷底に行く飯田線との取り合わせが面白い。映像がくっきり浮かびます。読み手にとっても視覚的なイメージを伝えてくれています。リズム良く、“スッキリ”、“ハッキリ”、“ドッキリ”です。

優秀賞

はないかだ 花筏 よ 寄りて 離るる はな 淡き恋 あわ こい

ふる武

優秀賞

ふくいく 馥郁と ちくさ こうえん 千種公園 ゆり かほ 百合香る

柘植 登志子

優秀賞

ひまわり 向日葵も かお そむ 顔を背ける ひざ 陽射しかな

平野 弘

佳作

ちやや さか 茶屋が坂 のぼ よひら 上り四葩の はな うみ 花の海

キタロー

佳作

しゅらん 春蘭は ひっそり 生きる い 醜女花 しこめ はな

岡部 倫子

佳作

しらかべ 白壁に いのち 命 ゆだねる とけい そう 時計草

林 石根

佳作

ゆりの園 その いろか よ 色香に酔ひて とき 時わすれ

佐藤 成子

【川柳部門】

---

最優秀賞    こ    こえ    はなの    あそ    しほ    つえ  
子の声に    花野に遊ぶ    試歩の杖    松波 壽子

～審査員講評～

子どもの明るい声と花野へ足を延ばす老人の姿が髣髴とする。場所の設定と下五の言葉の現実性との思いがしっかりと作品の中に詠まれて、ほのぼのとした心を頂いた。

---

優秀賞    あい    ことば    とど  
マスクでは    愛の言葉も    届かない    田中 五十鈴

---

優秀賞    の    さ    いっきいちゆう    く  
野に咲いて    一喜一憂    せぬ暮らし    木村 行吉

---

優秀賞    芍薬が    退院の日に    咲き誇り    すみれ

---

佳作    うんちくを    えいよう    さ    ちち  
うんちくを    栄養に咲く    父のバラ    ゆったん

---

佳作    た    ばなし    みみ  
立ち話    ニチニチソウが    耳すます    本多 キクエ

---

佳作    ろくが    つま    たの    はな    きこう  
録画して    妻と楽しむ    花紀行    木股 昭

---

佳作    いちりん    つま    かんしゃ    はな  
一輪の    妻へ感謝の    バラの花    小山 良實

---

【子ども部門】

最優秀賞 あの子はね えがおがステキ 花のよう

山口 凜心

～審査員講評～

短詩（俳句）は感じたことを子どもの眼、気持ちで、あり

のまま、素直に、易しい言葉で表現すると良い、と俳聖

芭蕉も弟子に教えています。悲しい時、淋しい時でも花の

ような笑顔に出会うと本当に心が和みますね。ちよっと

甘酸っぱくて嬉しくなる、良い句です。

千種華道協会賞

カーネーション ママにあげたよ ないちゃた 山田 くみ子

～審査員講評～

お母さんは悲しくて泣いたんじゃないよネ。うれしくつ

て、うれしくって、うれしすぎて泣いちゃったんだよね。

すなおな表現で、リズムも良く、とても子どもらしくて

良い句だと思います。お父さんも欲しいだろうな。

優秀賞	チューリップ 風にゆれるよ おどってる	櫛田 梗夏
優秀賞	花舞って そこからようせい やってくる	天明 紗友里
優秀賞	彼岸花 まるで夕日と 燃えるよう	曾我 桃子
優秀賞	さくらの木 始まりつげる やさしい木	田中 結希菜
優秀賞	あじさいは コロナにまけない 強き花	若山 実咲
優秀賞	おりがみで バラをいっぱい ママえがお	東野 瑛範
佳作	ふわふわと わた毛がとぶよ 雪みたい	やす田すす音
佳作	はなってね うつくしいけど かれちゃうの	ししど ろみ
佳作	ひまわりは ゴッホがかいた きれいな絵	加藤 穂乃佳
佳作	チューリップ 赤白黄色 ポップポップ	丸山 紗那
佳作	押し花に なってわたしと 本をよむ	河野 留杏
佳作	ガーベラを ちぎってちぎって 好きとでた	林 希帆

佳作	ハ・ハクシヨン	ズルズルズルズル	スギの木め	大島 知華
佳作	コロナでも	花 <sup>はな</sup> も負 <sup>ま</sup> けずに	咲 <sup>さ</sup> いている	山村 夏生
佳作	小百合 <sup>さゆり</sup> 咲 <sup>さ</sup> く	僕 <sup>ぼく</sup> はいつまで	待 <sup>ま</sup> てばいい?	伊藤 璃音
佳作	朝顔 <sup>あさがお</sup> に	まだかまだかと	にらめっこ	加藤 夏芽
佳作	夕立 <sup>ゆうだち</sup> や	紫陽花 <sup>あじさい</sup> ながめる	土蛙 <sup>つちがえる</sup>	川合 環華
佳作	花 <sup>はな</sup> がらで	マスク <sup>てづく</sup> 手作り	ママとペア	黒木 結菜



第六回千種区俳句・川柳コンクール

～花(季節を問わず)にまつわる句を自由に詠んでみよう～

選者

俳句部門	大原 坦	先生(ともしび白珠句会俳句部門編集責任者)
川柳部門	浅野 滋子	先生(さざなみ川柳主幹)
子ども部門	宮井 寛	先生(ともしび白珠句会事務長)

応募総数

俳句部門	165句
川柳部門	121句
子ども部門	1, 229句

